

# 誰も知らなかった！ 家の建て方??

新築される  
前に、ご覧  
下さい。

〈想定外の  
新災害を  
予防する  
技術解説  
2019年発行

- 地震の「理論とメカニズム」がようやく解けたら、地震や噴火も、万全な対策が可能になりました。！
- 実は、地盤構造で〈揺れ方が大きく違う〉のです。
- 想定外の揺れが起きてしまいます。＝異常振動です。
  - 1 基礎にヒビや、亀裂が入ったりします
  - 2 基礎と家が離れたり、上階や壁等にヒビが入る
  - 3 地震と家の振動が同期して、異常な揺れとなる  
振動調査で発見「Danger News」社

# [新築は設計する前]が大事 新常識！ = 大失敗を免れる。 {My Home}は事前調査が必須！

○「想定外」と地震学者が言い訳をしますが、想定のない学問は論外です。

建物の強度は、建築基準法等で、震度7クラスの耐震強度が必要です。

**ところが最も大事な地盤調査は簡単な調査と報告義務だけです(木造2階迄)**

だから、簡単に済ませて思わぬ直下型振動や同期型振動で失敗しています。

地盤(地質)構造で想定外な同期振動がある事を殆どの皆さんが知りません。

この本は、想定外な災害の、安全な予防対策をお知らせします。2019年初版

地震予知安全ネット(JYAN研)& Danger News (社)

◎誰も知らなかった（新災害）

新築の時、見落としていたのです！

いの一番に建築場所の地盤調査！

想定外の激震は耐震設計で補正可

新発見！大地震は地質構造で「揺れ方」が大違い！

大噴火や火災、風水害等も、事前調査で予防できる。

- 後悔しない予防調査と建築設計
- 災害を知って万全の体制

DangerNews(社) JYAN研

# あなたの家は、震度7+の耐震構造？ 「想定外の地震」は、大丈夫ですか？

## • 想定外の地震とは

- ① 直下型の地震は、上下動が激しい地震ですが、繰り返して、地震に襲われては、耐震基準通りの強度があっても、耐えきれません。(熊本地震では**震度7が2回(5強以上が11回)連続**)これは、想定外ですが、実際、ひび等で心配な新築家屋が多いのです。
- ② 地盤によっては、上下動又は横揺れが特に激しくなる地震があります。また、軟弱地盤や海浜埋め立て地域は、地盤沈下が起きたり、長周期や同期振動があるので、想定外対策を勧めます。

# 新築の震度 7 + 地盤調査の要領

- 地盤調査が必要な事は判りましたが、どうしたら調査できますか？
  - ① 最も簡単な方法は、過去の地震を調べて、上下動が激しいとか、横揺れや、混在等が多かった等の様子で判ります。
  - ② 上下動か横揺れ主か？で、対策が異なりますが、岩盤質は上下動が激しく、砂又は粘土質は横揺れや振動が大きく異なります。
  - ③ 地質調査の専門業者には、地下10m程度の地質を調べて貰う事ができますが、深層は、過去の地震記録調査が最も良く判ります。
- ◎当該DN社(JYAN研)でも、地元市町村等で過去の地震記録から、揺れ方を調査して、設計上のアドバイスをすることができます。

# 新築時に考える＜想定外の対策＞

震度7の耐震設計以上の耐震構造が、何故必要なの？

- ① 基礎地盤が岩質の場合、上下動が激しく、高周波的な震動も多く根太や梁を振動させます。連続10回くらいの地震でも接続部分が大丈夫なように、構造を設計し、確実に繋ぐ工事が必要なのです。
  - ② 地震の振動と家屋の振動が同期する事があります。これは想定外の激しい上下左右の振動となります。従って、基礎構造を強くし、接続部分をより強固にする事が、想定外の耐震対策になります。
  - ③ 上階や屋根構造は軽く、強くなりましたが、ソーラーや温水器は振動対策が必要です。全体的に適正設計すれば費用節減できます。
- 他 高層ビル等は地質調査の義務がありますが、深層調査は無いので、地震波形調査が必要です。

# 新居、アパート選び、土地購入などは

- 住居の安全や災害対策で主に調べること
  - ① 風水害に強いところか？ = 調査要す（過去の災害記録等）
  - ② 津波や雪害に強い所か？ = 調査要す（過去の災害記録等）
  - ③ 地震や噴火、交通手段に心配が無いか？等でしょう。  
= 海拔や川沿いか？過去の災害記録等を調べます。
- 同じ市内でも、地盤が違えば、揺れ方が大きく変わります。
- 特に、海岸側の埋め立て地や砂浜だった所などは、横揺れに注意ですが、下が、岩質の所は上下動、広大な農地等は火山灰が積層化しており、高周波的振動は少ないでしょう。

# 家族を守る防災全般の基礎知識

- 災害対策 = 保険で命は救えないので、まず、事前の予防対策を！
- 火災の対策 = 火災は多くが放火です。燃える物を外に置かないで下さい。また、タバコや天ぷら等も注意が必要です。
- 水害の対策 = 海拔が低かったり、川の水位(土手)より低くなる場所は要注意です。津波も過去例を見て対策をしてください。
- 地震の対策 = 耐震強度を守り、土質に合わせた強度補強を
- 噴火の対策 = 火山が近いところは噴火災害の対策が必要です。特に、火砕流や噴煙対策として、避難準備や訓練が必要です。
- 避難には何が必要か？ = まずは、避難袋を持って逃げること。そして、後で取り出せる場所に、1週間分の水や食料、必要な薬や、ラジオと懐中電灯、寝具や保温対策物品等を保管してください。



# 消防のプロが薦める家の建て方

- 家の場所選定について
  - ①土地の安全性を確認します。・過去の災害事例を調べる。
    - ・ 火事、水害、風害、雪害、交通事情等を調べる。
  - ②生活利便性　・ 買い物、周囲の家等を調べる。
  - ③学校、病院、公共施設　・ 近くの利便性を調べる。
- 家の設計について
  - ①敷地の地質調査、地震、台風、水害等、災害対策の検討
  - ②平屋、2階建て、鉄筋、コンクリート等
  - ②火災、類焼防止、救急対応、救助、噴火などの対応
- 基礎部と接続部の強度を強くし、梁と筋交いを増やします。

# 住む為の環境作りで快適に！

- 子育てには、2世代、3世代が最も良い
- 親戚が近くにあると便利
- 地域の特色を掴んで入居するのがよい
- 周囲の住人が大きく影響してくるので、場所を選ぶこと
- 犬や猫も問題の種となる
- できれば、畑を借りて野菜づくりがベスト
- 趣味を持たなければ、晩年が寂しい。
- 周囲とは、近すぎず、遠すぎずがベスト

# 人生は予防で安全、快適生活

- もっと詳しくお知りになりたい方は
- 「万全な安全対策」をどうぞ